

成長期の矯正治療について

不正咬合は、歯やあごに力を加える口の周りの筋肉とかかわりが

シリーズ・歯の健康相談

子どものかみ合わせや歯並びが気になる。早いうちに治してあげたいと思うのが親心。夏休みに矯正治療を始める人も多いとか。今回は、成長期の矯正治療について、「ほりい矯正歯科クリニック」の堀井和宏さんに詳しく聞きました。

あごの成長のアンバランスが不正咬合を招くことも

成長期のかみ合わせが不正咬合(こうこう)となる要素に、あごと歯の大きさのアンバランスや、上あご・下あごのどちら



9歳女児の治療例。上あごの前歯と下前歯の前後差は11ミリで、下あごの前歯はでえ、上あごの歯ぐきにかみ合っている

取り外しのできる装置を上正常にするようにできた

ほりい矯正歯科クリニック・堀井和宏さん



の筋肉が弱く常に口を開いているようなケースでは、上の歯が前に出っ張った上顎前突(じょうがくぜんつとつ)となりやす

鼻のつまりや指しゃぶりも要因に

また、鼻のつまりのせいで、口呼吸する癖があり、舌が口の中で下方へ下がる傾向がある場合は、下あごや、下の前歯が内側から外へ押される

力が通常より大きくなるため、反対咬合(いわゆるうけぐち)になりやすいと考えられます。

あごを閉じる筋肉が発達してかむ力の強い場合は、それに合わせて骨格も発育するため、上下の前歯が深くかみ込み、上の歯が深くかみ込まないようになりやすいでしょう。

そのほか、指しゃぶりの癖がなかなか取れず、指を吸うことで上あごや上の前歯に前方へ引っ張る力が加わり、上顎前突になる場合もあります。

装置で口周りの筋肉のバランスを調整

治療としては、装置などを使用して、あごや歯に自然に加わる力を増やしたり、減らしたりしながら成長の軌道修正を行い、正しいかみ合わせに

もちろん、すべて筋肉が要因ではなく、遺伝などさまざまな要素が関連していることも少なくありません。かみ応えのある食品をよくかみ、舌や口の周りの筋肉を鍛えれば、少しでも不正咬合を減らすのに効果があるかもしれませんね。